

園だより

第 12 号

令和 7年 2月 27日



ばんけい幼稚園

スキー活動を終えて

砂田 雪絵

青組の子どもたちが15回に渡って取り組んできたスキー活動が2月18日の片付けをもって終了しました。年長のスキー活動は、技術の習得が目的ではなく冬の遊びの一つです。『環境を活かし、冬の遊びを楽しむ』『楽しく安全に活動するためにルールを守ることの大切さを知る』『公共の場(スキー場)での約束を知る、守ろうとする』『友達と一緒に困難と感じることにも挑戦し、達成感を味わい、自信につなげる』『友達の頑張る姿を認め、成長を喜び合う』ことをねらいとして取り組みました。

11月から、スキーやスキー靴を合わせたり、用具の持ち方を知ったり、室内でスキー靴を履いて歩いてみる、畑でスキー靴でかけっこや足ジャンケンなどのゲーム遊びをし、少しずつ用具に慣れるところから始めました。3学期からはスキーを履いての活動です。まずは、用具を大切にすること、用具と仲良くなることから始まります。そのためには自分の脚で何度も歩いて登る、滑るを繰り返します。年少、年中時の雪遊びの経験や、散歩で鍛えられた脚と心は「もっと滑りたい」という子どもたちの意欲につながっていきます。始めは思うようにならなくて「大変」と思うこともありますが、共に生活してきた仲間と一緒に活動することで励ましあったり、助け合ったり、仲間の上手なところや頑張っている姿に刺激を受けたり認め合ったりしながら「楽しい」に変わっていきます。時にはライバル心が原動力になることもあります。

ばんけいの子どもたちは、リフトに乗る前に自分の脚でグリーンリフト頂上まで歩いて登ることが伝統になっています。今年は林間コースからとグリーンAコースの急斜面からの2度の登頂をやり遂げました。散歩で何度も歩いてきた林間コースを「山ぶどうをとったところだね」と思い出しながら、「もう少しだよ」「ここまで来たら少しは楽になるよ」と励まし合いながら一步一步登って行きます。頂上を目指して仲間と一緒に登る体験は、大きな達成感や充実感をもたらしてくれたことでしょうか。念願のリフト券を手にした子どもたちの笑顔はとても輝いていました。リフトに乗ってゲレンデをクラスの仲間と気持ちを合わせてトレーンで滑ることを経験し、いろいろなコースをスピードをコントロールしながら友達と一緒に楽しんで滑りました。この活動が子どもたちの心に残り、大きな心の成長となることを願っています。